

平成 21 年度 高等学校における学校評価（自己評価）の結果報告

平成 21 年度に高等学校において実施した学校評価（自己評価）の結果を報告致します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成 22 年 3 月
- 2) 調査対象 高等学校本務教員
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校運営に係わる項目について自己評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5 段階評価を行いました。
 - 5：その通りである（達成度 80～100%）
 - 4：どちらかと言えばその通りである（達成度 60～79%）
 - 3：どちらとも言えない（達成度 40～59%）
 - 2：どちらかと言えば違う（達成度 20～39%）
 - 1：全く違う（達成度 0～19%）

■評価の重点項目

- ◎建学の精神 報恩感謝
- ◎教育の目標 尊敬される人間の育成
- ◎教育方針 個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主
- ◎平成 21 年度の学校目標
 1. 基本的な学習態度を身につけ、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
 2. 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身につけさせる。
 3. 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
 4. 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、良い人間関係を築こうとする態度を養う。

■概 評

この学校評価は、教員による自己評価にもとづくものである。前年度、このような自己評価を行うことによって、教員が自校の教育目標・教育方針を再認識し、それらを自覚しつつ日常の教育活動に取り組もうとする契機になったのではないかとと思われる。これまで教員は自分が担当する学級運営や教科指導、校務分掌等に係わる分野に対する理解や評価はできるが、直接自分が係わらない分野の教育活動や運営については、必ずしも関心が行き届かず、また評価もし難いものであったかと思われる。

しかし自己評価を行うことによって、学校が様々な分野・領域の活動・運営によって成り立っており、それぞれの分野・領域を担当する多くの教職員によって学校が支えられていること、またそのチームワークこそが教育活動の充実と学校発展の原動力となっていることを、個々の教員が理解したのではないかと思う。

学校評価の結果と分析を通して、本校の教育活動が成果を挙げつつある分野と、そうでない分野があることを認識し、どこに課題があるのか、次年度どの分野に重点目標をおいて、どのような対策や教育計画を立てればよいかということが明確になってくる。もちろん、教育目標を掲げ、活動計画を立ててたからといって、直ちに顕著な成果が現れるものではないが、教員が自覚的に課題の解決にあたり教育目標を達成しようと、意欲的に取り組むことが大切である。そのような積極的で地道な取り組みが、やがて成果となって実を結び、生徒の成長を促し、学校の充実・発展をもたらすことになると思える。

前年度に比べ、多くの項目で自己評価が上昇している。特に生徒指導・生徒支援の分野・項目で高い評価結果が得られた。これは、教員がこれらの分野を中心に課題を意識し、熱心に教育活動に取り組んでいることを反映したものとと言える。ただ、比較対象となる生徒・保護者の学校評価は、教員の評価よりも低く、前年度並みとなっていることを踏まえれば、教員の指導が生徒や保護者には必ずしも十分に評価されていない部分があることは、今後とも指導内容・指導方法等に改善の余地があると言わなければならない。本校の教育活動が生徒・保護者にも理解され浸透し、評価されるものとなるよう一層の努力が求められる。

■今後の改善方策と学校運営

本校が掲げている教育の重点目標については適切なものと考えている。ただ、その目標について成果をあげるための指導計画と具体的な方策には改善課題がある。教科における学習指導、校務分掌における生徒指導や進路指導、学級・学年における生徒支援等について、指導方法の改善や支援体制の整備、指導力や資質の向上のための研修の充実などが課題として浮かび上がっている。これらの課題を解決していくためには、学校の運営体制を整備し、教育方針や教育目標の共有と教員の連携・協力の一層の推進をはかる必要がある。また会議の運営あり方を見直すことによって課題の検討をより成果のあるものにし、研修の充実によって教員の資質向上と学校の教育力向上をはかることも実現していかなければならない。より良い教育の実践こそ最良の募集対策であり、保護者や地域社会の要望に応えられる教育を行うことが学校の発展につながるという視点から今後の教育改善と学校運営を進めていきたい。

■評価の集計と分析

1. 学校運営

分類	評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価平均	H21 評価平均
学校運営	私学の 独自性	建学の精神について	建学の精神『報恩感謝 尊敬される人間の育成』を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.6	4.0
		教育方針について	教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.5	3.9
	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4.3	4.3
		教科の教育計画について	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿って指導している。	3.8	3.9
	教職員 連携	教員・教科間連携状況	教育課題について教員間で日常的によく話し合っ、教育活動が行われている。	3.3	3.6
		会議の有効性	職員会議・学年会議をはじめ各種会議・委員会が、情報交換と課題検討の場として有効かつ効率的に機能している。	3.3	3.3
	財務関係	教育の充実と 経費節減に関する意識	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展をめざして教育活動の充実を図っている。	3.6	3.7
			経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考えて、学校経営を行っている。	3.6	3.6
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開をしている。	4.1	4.0
	危機管理	危機管理対応状況	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担している。	3.6	3.7
			緊急時に備え、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とっている。	3.7	4.0

<コメント>

(1) 建学の精神

建学の精神をよく理解し、折りあるごとに想起している。昨年度より 0.4 ポイント評価が上がっている。本校の基本精神として日常の教育場面に即して生徒にも浸透させていくことを心がけたい。

(2) 教育方針

創立以来の教育方針にそって教育目標が立てられ教育活動が実践されている。昨年度より 0.4 ポイント評価が上がっている。日常の教育活動の中に教育方針が浸透しつつある。

(3) 教育課程

学習指導要領をふまえ、各コースの特色とカリキュラムに沿って指導にあたっている。昨年と同様に高い評価となっている。

(4) 教育計画

年間の教育計画を立てて指導にあたっているが、生徒の関心・意欲や理解に即したものとなっているか見直す必要もある。授業の現状を見つめ、問題点を改善していかなければならない。

(5) 教育課題

教育課題について、教師間の相互理解と協力の大切さを認識して取り組んでいる。昨年より 0.3 上昇している。ただ、その評価は高くなく、教師間の連携はさらに強化されなくてはならない。

(6) 会議が効率的

会議・委員会は必ずしも有効に機能していると受け止められていない。昨年同様に評価は高くない。連絡と協議の区別、課題の優先順位等をふまえ、実のある協議・会議運営を行ないたい。

(7) 私学経営

経営と教育のバランスについて多くの教員が意識しているが、経営や財務と教育活動を直接結び付けて活動することは難しい。教員は生徒指導や教育課題に重点を置かざるを得ない。

(8) 財務経費節減

私学の教員として学校経営という視点を持ち経費節減に努めつつ教育活動にあたるのが大切である。教員は教育の質を高めることが経営の安定につながると理解して教育にあたっている。

(9) 学校HP

学校の情報公開は進みつつあり、ホームページを通して教育活動や学校の情報はほぼ伝達されている。さらに情報内容を充実させ、学校と保護者・地域の連携を深めるのが大切である。

(10) 危機管理

危機管理には自然災害・火事などの防災や対人的な防犯や保健衛生に係わるものなどがある。マニュアルを作成し役割分担もきめてはいるが、日常から意識し行動に繋げることが大切である。

(11) 安全対策

危機管理や安全について、その対応が学校において重要であるとの認識を教職員が日頃から持つことが大切である。0.3 上昇。防災訓練・A E D 講習などが安全対策として定着している。

2. 教育内容

分類	評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価平均	H21 評価平均
教育内容	教科指導	学習指導	授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行っている。	3.9	4.1
			生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	3.7	4.2
	情報教育	情報モラル教育	授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	3.5	3.7
			生徒の情報活用能力の育成を図っている。	3.5	3.7
	人権教育	人権教育体制	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	3.6	3.6
			周囲の人を尊重し、より良い人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	3.9	4.2
環境教育	実践的態度の育成	人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	3.6	3.9	
		自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている。	3.1	3.6	

教育内容	保健教育	保健・健康に関する指導について	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	3.8	4.1
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	文化祭・体育会などの生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4.3	4.2
	その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	2.8	2.8
		国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3.8	3.5

<コメント>

(12) 授業の工夫

基礎基本を理解させるために分かりやすい授業を実践しようと努力しているが、生徒の評価は上がっていないことから、学習指導の在り方について一層の努力と工夫が求められる。

(13) 学習意欲の向上

学習内容に興味・関心をもち意欲を高めさせ、学力を向上させようと努力している。教員評価は 0.5 ポイント上昇しているが、生徒評価は前年並みであり、より具体的な対策が求められる。

(14) 授業態度

授業を受けるのにふさわしい基本的態度を身につけさせ落ち着いた教室環境を整備していこうと指導しているが、生徒に十分浸透していくよう、さらに継続して規律ある授業環境を作りたい。

(15) 情報活用能力

学校生活のみならず社会生活においても必要な情報活用能力の育成について、一定の成果は見られるが、さらに十分な成果をあげスキルアップできることが今後の課題である。

(16) 情報モラル

この点の評価は昨年度並みであり、今後ともパソコンや携帯電話の誤った使用や人を傷つけるような発信に対する指導・対策が求められる。人権教育の観点からも適切な指導が必要である。

(17) 人間関係

周囲の人を尊重し、友人関係を大切にし周囲の人たちと良好な関係を築くことの大切さを日常生活のなかでよく指導しているが、その精神が浸透しつつある。0.3 ポイント上昇している。

(18) 人権意識

人権意識を高め、周囲の人を尊重し、差別をなくそうとする態度を養う指導が行われている。良好な人間関係を築き、より良い社会を目指すために正しい判断力と行動力を育てたい。

(19) 自然の大切

環境を大切にするエコロジー教育は少しずつ取り入れられており、その成果も見えつつあるが、学校としても積極的な取り組みを行い、また生徒が主体的に活動ができるよう指導していきたい。

(20) 心身の健康安全

心身の健康教育は、保健体育科・保健室・相談室などを通して指導・啓発を行っており、生徒に対して人間関係や心のケアなどの面で積極的にサポートしている。前年度より 0.3 上昇。

(21) 生徒会活動

生徒会の自主的な活動に対して積極的に支援している。スポーツ大会・文化祭・体育会など生徒会が中心となる行事が活発に行われており、教育方針の「実行から学べ」を実践している。

(22) 図書館利用

図書館は充実した書籍を揃え読書や学習にふさわしい環境ではあるが、生徒の利用状況は芳しくない。生徒が関心を持ちやすい図書を置くなど図書館を利用しやすい雰囲気になりたい。

(23) 異文化理解

選択科目に国際理解を取り入れるなど、異文化理解を推進する取り組みを行っているが、広く国際的な視野を持つことや友好校との相互交流などの国際理解教育は一部に留まっている。

3. 生徒指導・支援

分類	評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価平均	H21 評価平均
生徒指導・支援	生徒指導	生活指導について	生活の基本である時間を守るという指導を行っている。	4.1	4.2
			挨拶をはじめとして、礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている。	4.1	4.3
			服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールを理解させ守らせている。	3.8	4.0
			生徒に清掃、校内美化に取り組むよう指導している。	4.1	4.2
		家庭との連携状況	家庭と学校との協力と連携のもとに生徒指導を行っている。	4.4	4.3
	生徒支援	学習支援について	学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。	3.9	3.8
		カウンセリングマインド	生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたきめ細かい相談・指導を行っている。	4.0	4.1
		進路指導について	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスなどの進路指導を実施している。	4.1	4.1
			個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。	4.1	4.2
		内部進学について	学園の短大や大学への進学を希望する生徒には積極的に支援している。	4.6	4.5

<コメント>

(24) 時間を守る

規律ある生活を指導し、時間を守ることの大切さについて熱心に指導している。何より学校生活が楽しく目標のあるものにすることが遅刻を減らすことにつながると理解して指導している。

(25) 挨拶と礼儀

校門での朝の挨拶運動や、教室・廊下での挨拶など、より良い人間関係を築くためには挨拶の励行は欠かせない。挨拶の輪を広げ、さらに基本的な礼儀・マナーを身につけさせたい。

(26) 服装頭髪

規則に違反する事例は減少してはいるが、まだ改善の余地はある。生活指導は地道に粘り強く継続して実施したい。生徒が自主的に規律ある態度をとってくれるようさらに指導していきたい。

(27) 校内美化

美しく整理・整頓された教室でこそ落ち着いた学習も可能となり、また生活面も人間関係も良好なものとなる。生活指導の基本でもある環境美化活動に今後とも力を入れて指導していきたい。

(28) 家庭の協力

生徒指導に関して家庭との連携は電話・家庭訪問・懇談会などで、ある程度実現できている。生徒の気になる面も、日常的に家庭と連携・協力して、より良い指導を積み重ねていきたい。

(29) 学習支援

学習の苦手な生徒、遅れている生徒に、きめ細かくていねいに指導するよう心がけている。しかし、個々の生徒に対する十分な指導がいき届いていない面もあることは改善したい。

(30) 個に応じた指導

一人ひとりが抱えている問題に目を向け、きめ細かく声をかけ、相談に当たろうとしている。担任・養護教諭・カウンセラーなどが連携して生徒を支えるように心がけている。

(31) 進路指導

進路情報の提供やガイダンスの実施などを行い、将来の目標を決めるための判断材料を提供したり、見学・体験・相談の機会を設けるなど、学年・時期に応じて適切な指導を行っている。

(32) 進路相談

進路目標を決めかねているときや、不安を感じているときなど、生徒の個性の実態に応じて相談にのり適切な指導している。さらにきめ細かく、親身になって丁寧にサポートしていきたい。

(33) 内部進学

高短、高大の連携強化を図り、生徒が短大・大学の教育内容に触れ、それを参考に進路目標決定の一助にしてもらう取り組みを行っている。生徒の個性・適性をふまえて指導を行っている。

4. 教員研修・資質向上

分類	評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価平均	H21 評価平均
・ 教員 研修 資 質 向 上	教員研修	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換などを行う機会がある。	3.0	3.0
		校内研修	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員の研修を実施している。	3.3	3.3
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	2.9	2.8

<コメント>

(34) 教員間の意見交換

教員が相互に学びあう機会について、日常的にもある程度行われているが、それでは不十分であると感じている人が多い。教員としての資質向上にさらに努めたいという意欲の現われと思う。より良い教育実践のために、相互の話し合いや経験交流を行い教育力を高める機会を設けたい。

(35) 校内研修計画

校内研修は定期的実施しているが、十分ではないと多くの教員が感じている。教員としての資質向上を図りたいと希望している。実りある研修のためにいかにゆとりを生み出すかが課題。

(36) 研修報告

忙しさの中で研修に参加すること自体が控えられているのではないか。また教員が研修したことを報告し共有することも十分にはできていない。資質向上のために学びあう環境づくりが大切だ。

以 上